



〈研究〉修繕費ノ會計ニ就テ原口教授ノ高教ヲ仰グ

増地, 庸治郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 29(4):583-587

(Issue Date)

1920-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053244>



修繕費ノ會計ニ就テ原口教授ノ高教ヲ仰グ

大阪高等工業學校講師

商學士 増地 庸治 郎

一

修繕費ヲ如何ニ整理スベキカハ實際上甚ダ困難ナル問題デアルガ、之ニ對シテ原口教授ガ本誌八月號ニ於テ明快ナル解答ヲ下サレタルハ吾人ノ大ニ感謝スル所デアル。先ヅ教授ノ提唱セラレタル整理法ハ次ノ如クデアル。即チ修繕費ハ悉ク之ヲ「改良費ト同ジク資本的支出トシテ資産ノ價格ニ計上スルモノデアル」(七頁) 從ツテ其價格ハ一會計年度内ニ於テ處分スルコトナリ、「資産ノ價格消却法ニヨリテ各會計年度ノ損失ニ分配スルノデアル」(同上) 而シテ此ノ如キ整理法ヲ採用スベキ理由トシテ教授ノ示サレタル所ヲ要約スレバ次ノ一點デアルト思フ。第一ハ實際上ノ理由ト見ルベキモノニシテ、修繕費ヲ營業トシテ整理スルニハ改良費トノ關係上、及損益ノ分配上種々ノ困難ヲ伴ヒ、「之ヲ解ク十分ナル方法ガナイ。凡ソ斯ル限界ノ明ラカナラザルモノヲ解決スルニハ、其限界ヲ撤廢スルノ外、方法ガ無イノデアル」ト。(同上) 又第二ハ學理上ノ理由トモ云フベキモノニシテ「修繕ノ性質ヲ吟味スルトキハ修繕費ヲ損失ナリトスルコトハ、完全デナイ」何トナレバ物品ハ之ニ修繕ヲ加フルトキハ、修繕スル前ニ比シテ、修繕費ダケ價格ヲ増加スル。修繕其モノハ決シテ損失

デナイ。唯修繕ヲ要スルニ至リタル事項ガ損失デアルノデアル」ト。(同上)

二

以上ハ教授所說ノ概要デアル。然ルニ吾人ハ直チニ次ノ疑問ヲ抱クニ至ツタ。

(一) 實際上修繕費ヲ營業費トシテ整理スルニハ改良費トノ關係上、及各會計年度ノ損益ヲ公平ニ分配スル必要上多大ノ困難ヲ生ズルコトハ吾人モ充分ニ之ヲ認メル。然ルニ其限界ノ明ナラザルノ故ヲ以テ直チニ限界ヲ撤廢シテ、修繕費ヲ改良費ト全ク同様ニ整理スルトイフコトハ會計學上果シテ穩當デアラウカ。

(二) 理論上修繕費ハ悉ク損失デナク、又修繕ヲ加フルトキハ必ズ修繕スル前ニ比シテ修繕費丈價格ヲ增加スルカ。

三

以下少シク卑見ヲ開陳シテ更ニ教授ノ高教ヲ仰ギタイノデアル。先ヅ修繕費ノ性質ヲ吟味スルニ二種アルト思フ。第一種ハ資産ノ使用中自然ニ發生スル損害ニ對シテ支拂フ修繕費デアル。例ヘバ壓延機械ノ「ローラー」ガ使用中漸次磨損シタル爲メ修繕ヲ加ベタル場合ノ如キ之デアル。此ノ如キ場合ニ於ケル修繕費ハ確カニ損失デハナイ。其ハ資産ノ性質上自然ニ生ズル損害ノ填補デアツテ、修繕ヲ加フルトキハ修繕スル前ニ比シテ修繕費丈價格ヲ增加スル」モノデアル。性質上此種ノ修繕費ハ改良費ニ近キモノデアツテ、恐ラク其限界ヲ定メルコトハ不可能デアラウ。而シテ斯カル資産ニ對シテハ年々價格ノ消却ヲ行ヒツ、アル以上、之ニ加ヘタル修繕費ヲ營業費トセズシテ資産價格

ニ組入レルコトハ毫モ差支ガナイ。從テ吾人ハ此種ノ修繕ニ就テハ教授ノ說ニ贊同スル。

然ルニ修繕費ノ第二種トモ云フベキモノトシテ、資産ノ性質上自然ニ生ズルモノニ非ザル偶發的ノ損害ニ對スル修繕費ガアル。例ヘバ前記ノ壓延機械ノ「ローラー」ガ何等カノ故障ノ爲メ突然破損シ、之ヲ修繕シタル場合ノ如キ之デアル。斯カル場合ノ修繕ハ資産ノ實質上ヨリ見ルモ又價格上ヨリ見ルモ單ニ損害發生以前ノ原狀ニ回復スルモノニ過ギナイ。否寧ロ原狀以下ノ回復トナル場合ガ多イデアラウ。何トナレバ機械ノ部分品ノ如キハ全ク同性質ノモノヲ作ルコトノ困難ナル場合ガ多イカラデアル。此ノ如キ修繕ヲ加ヘタル場合ハ「修繕スル前ニ比シテ修繕費丈價格ヲ増加スル」モノト云フコトハ出來ナイ。從ツテ此種ノ修繕費ヲモ「改良費ト同ジク資本的支出トシテ資産ノ價格ニ計上スル」コトハ甚ダ不合理デアツテ、此ノ如キモノハ必ズヤ損失トシテ營業費ニ計上スベキモノデハナカラウカ

尙教授ハ修繕費其物ハ損失デナク、「唯修繕ヲ要スルニ至リタル事項ガ損失デアル」ト説明セラレ修繕費ヲ支拂ヒタル場合ニ於ケル

營業費	借	現金	貸
-----	---	----	---

トイフ仕譯ハ

(1) 營業費	借	資産	貸
(2) 資産	借	現金	貸

トイフニツラ纏メタモノデアツテ「(2)ハ資産價格ノ増加ナルコトハ疑フベキコトデナイ」(八九頁)

ト論ゼラレテ居ル。然ルニ此説明ハ餘リニ分析的ニ見タルモノニシテ、損害ノ發生ト其修繕トノ因果關係ヲ無視スルノ嫌ガアル。少クトモ實務上ハ損害ノ發生ト修繕トヲ分析スル必要ガナイトイツテモ過言デアルマイ。恐ラク我邦企業家ノ會計ニ於テ損害發生ノ場合ニ於テ

(1) 營業費 借 資産 貸

トイフ仕譯ヲナシ、次ニ修繕費ヲ支拂ヒタル時ニ

(2) 資産 借 現金 貸

トイフ仕譯ヲナスガ如キ整理方法ヲ採レル者ハ餘リ其例ガナイダラウト想像スル。苟クモ損害發生ガ修繕ノ直接原因デアル以上兩者ヲ合セテ整理スルコトハ會計學上毫モ不都合デナイト信ズル。又會計學ノ要求スル「精密」トハ斯カル事ヲ指スノデハナカラウト考ヘラル。從ツテ修繕費ガ如何ナル場合ニ於テモ損失デナイトイフノハ普通ノ用語上妥當ヲ缺クモノト云ハナケレバナラナイ。

四

次ニ實際上ノ問題トシテ修繕費ト改良費トノ限界ハ微妙ニシテ之ガ決定ハ頗ル困難ナルモノデアリ、又各會計年度ニ亘ツテ如何ニ分配スベキカハ常ニ當事者ノ頭ヲ悩ス問題デアル。然ルニ此ノ如キ實務上ノ困難アルノ故ヲ以テ直チニ修繕費ト改良費トノ限界ヲ撤廢シテ資産ノ價格ニ計上スルコトハ殊ニ精密ヲ貴ブ會計學上甚ダ不合理ナルモノト云ハナケレバナラナイ。此ノ如キハ恰モ黒ト白トノ間ニ灰色アルヲ以テ之ヲ悉ク黒ト看做スベシトイフト同様デアル。近世ノ如ク其ノ計算精密ヲ極ムル時代ニ在ツテ「斯カル整理方法ヲ採用スルコトハ著シキ時勢逆轉デアル。勿論如何ナル程度

迄改良費トシテ資産ノ價格ニ組入レ、又如何ナル程度迄修繕費トシテ營業費勘定ヲ以テ處分スベキ
カハ實際ニ當ツテ決定スルノ外ナク、之ニ對シテ學理上一般ニ客觀的標準ヲ定ムルコトハ不能且ツ
不要デアル。

(附記)筆者ハ會計學ヲ專攻スル者ニ非ザルモ實務上偶々此問題ニ逢着シツ、アルヲ以テ敢テ拙文ヲ草シテ教授ノ高教ヲ仰グ次第デ
アル。筆者ノ不敏或ハ先輩ニ對シ禮ヲ失セザルヤヲ恐ル。吳々モ教授ノ御寛恕ヲ乞フ。(九——八——二二)